平成２２年度　熊谷市総合振興計画審議会の概要

Ⅰ　日時：平成２２年１１月３０日（火）午後１時３０分～午後３時２０分
　　場所：熊谷市立商工会館２階大ホール

Ⅱ　次第
　１　開　会
　２　委嘱状の交付
　３　市長あいさつ
　４　委員の紹介
　５　会長・副会長の選出
　６　議　事
　　⑴総合振興計画の推進について
　７　閉　会



Ⅲ　委員　　（敬称略）

	氏　名	選　出　団　体	備 考
第１号	新井　昭安	熊谷市議会	会長
	須永　宣延	熊谷市議会	
第２号	森田　美江	熊谷市教育委員会	
	淺見　五兵	熊谷市農業委員会	
	木島　一也	熊谷商工会議所	副会長
	根岸　正治	くまがや農業協同組合	
	齋藤　洪太	熊谷市医師会	
	根岸　一雄	熊谷市自治会連合会	
	栗原　　尭	（社福）熊谷市社会福祉協議会	
	矢野　美登里	熊谷市文化連合	
	佐藤　恒夫	（財）熊谷市体育協会	
	瀬山　和彦	熊谷市ＰＴＡ連合会	
	飯田　ヒサ子	くまがや共同参画を進める会	
	岡部　聡史	（社団）熊谷青年会議所	
	矢嶋　隆男	「連合埼玉」熊谷・深谷・寄居地域協議会	

説明者　総合政策部長
　　企画課長、企画課職員

Ⅳ　会議の概要
司会者　総合政策部長
１　開　会
会議の概要を公開させていただくことの承認
会議資料の確認、欠席者の報告

２　委嘱状の交付
富岡市長から委嘱状を交付

３　市長あいさつ

４　委員の紹介

５　会長・副会長の選出
会　長　新井昭安 熊谷市議会議長
副会長　木島一也 熊谷商工会議所会頭

６　議　事
⑴総合振興計画の推進について
説明　企画課長

質疑等
（委　員）総合振興計画の進捗状況について、説明により把握はできたが、委員の立場で、どのような切り口で質問、意見を述べたらよいか。
（事務局）総合振興計画の各施策に対する意見、疑問点等を大所高所から指摘いただきたいという趣旨。毎年、計画の進捗状況等を報告し、御意見をいただくための会議になっている。
（委　員）アンケート調査報告書で回収率が 40.1％となっているが、少ないと考える。より多くの市民から意見がいただけるようお願いしたい。回収率が向上しないと、市全体の状況が把握できないと思われるので工夫してほしい。
（事務局）昨年は 40.5％の回収率となっており、今回とほぼ同様の結果であった。今後も工夫しながら、より回答をいただけるようなアンケートになるよう改善していきたい。ちなみに、平成 22 年度に実施している「市民意識調査」は 65％を超える回収率となっている。
昨年と今年の結果については、大きな相違はなかった。重要度、満足度についても同じような傾向になっている。
また、厳しい財政状況にある中で、予算要求の段階で、継続 5％減、

改善 10%減、拡大 30%増、縮小 30%減を目安に作成するよう指示をし、事務事業評価との連動を図っている。なお、昨年度の評価は低いが、今年度は改善を加え実施している事業もあることから、評価結果に固執することなく、予算ヒアリングにおいて精査していきたいと考えている。

（委　員）アンケート調査報告書に、熊谷の宝として全国に発信できるものが集計されているが、その 14 位に「荒川・利根川」とある。
荒川と利根川は、熊谷市にとって大きな宝であり、大いに宣伝する必要があると感じている。そのためには、市民に周知を図ることが大切だと思う。「荒川・利根川」の歴史、伝統、文化を取りまとめて、市民に知ってもらうことが大事と考えている。

（事務局）しっかりと取り組むことが必要と認識している。「環境共生都市」を目指す中で、いかに涼しく過ごせるかを目指し、庁内で意見を求めたところ 400 を超える意見があり、遮熱舗装、緑のカーテン、健康対策等で実現した施策もある。また、今年度新たに、30 歳代の職員を中心として、プロジェクトチームを立ち上げて、新規施策を実施するための取組を進めている。いずれにせよ、暑さ対策で新たな施策を展開し、全国に発信していく必要があると考えている。

（委　員）私は、久下の生まれで荒川のよさを知っており、また現在は、利根川近くに住んでいるため、利根川のよさも知っている。かつて、利根川沿いの妻沼小島小中学校に勤務していたことがあり、日々、様々な景色が楽しめた。それぞれの川に対して造詣の深い人から話を聞き、資料を作成し、市民に伝えることが重要と考える。
例えば、久下橋から見える富士山の景色を、市民の皆さんが認識し共有することが大切と思う。

（事務局）荒川、利根川は各小中学校の校歌の中にも使われており、市民一人ひとりに思いがあるものと認識している。

（委　員）総合振興計画の「活力ある産業が育つまち」の中に、「認定農業者等を育成する」、「遊休農地を解消・活用する」とあるが、現実には、遊休農地は増えるばかりである。本市は昔から「農業都市」であったが、農業振興に対する手段に乏しいと感じている。

（事務局）農業の活性化に対しては、担当部署も精一杯努力しているところである。現在、市内の空き店舗を利用して、野菜や米麦生産者とタイアップしながら、直接、販売を行おうとする動きもある。
また、認定農業者の数は、当初現状値の 281 人から平成 21 年度には 327 人に増加しており、農業振興の実態とどのようにつなげていくか等、今後も地道に取り組んでいかなければならないと認識している。

（委　員）若い農業従事者に、今後の農業の方向性と目玉事業を打出してもらいたいと考えている。

（事務局）本市においては、小麦の生産量が多い中で、小麦産業クラスター研

究会があることから、これらの機関を通じて、うどん関係等で販売を強化することも想定される。

（委　員）アンケート調査に、ごみの分別・減量等の記述があるが、ごみの出し方で無責任な市民が多いと感じている。早朝や深夜にごみを出す人に、定められた搬出方法等を守らない人が多いと感じている。本市の市民は、ごみの搬出に対するモラルが低いのではないか。なお、犬のフン等の処理についても同様に感じている。

（委　員）自治会長をしているが、ルールを守らず、ごみを搬出する人がかなりいると思っている。自治会には環境美化推進員がいるが、対応しきれないのが現状であると思う。

また、資料３に「ごみ減量対策事業」とあるが、具体的にどのような事業か。

（事務局）本市の市民一人当たりのごみ搬出量は、県内の平均値よりもやや多い状況になっている。パッカー車でごみ収集を体験してみると、いかに無駄が多いか実感できる。中には、米がごみとして出されているケースもあり、堆肥として使えるような有機物も数多く出されている。落ち葉を堆肥化する等のリサイクル意識を啓発していかなければならないと感じている。ちなみに、市の管理職も年１回、荒川河川敷の清掃活動に参加している。

犬のフンの問題については、様々な会議でも議論されているが、フンの放置を防止する啓発看板の設置等、ＰＲしていかなければならないと認識している。市民活動の一環として、犬のフンの清掃活動等を行う「ワンワンサンデー」等も行われていることから、継続して取り組んでいきたいと考えている。なお、11 月号の市報で、犬のフンの処理対策等について掲載した。

「ごみ減量対策事業」の内容については、生ごみ処理容器・生ごみ処理機の補助を行う事業等となっている。

（委　員）ごみ処理は委託化を進めたほうがよいと考える。業務委託をすれば、より効率的になり、ごみの収集回数も増やせるし、経費の節減につながるものと考える。

（事務局）一般的に、ごみ収集回数を増やすと、ごみの総量が増加する傾向があると認識している。ごみ収集の委託に関しては、55％を委託、45％を直営で行っている。今後、委託割合が増えていくものと考えている。

（委　員）総合振興計画に「子どもの体力を向上させる」とあるが、資料１の「新体力テストで県平均を上回る項目の割合」は、平成 21 年度の実績値が 61.8%、めざそう値が 75%となっており、「遅れている」と評価されている。一方、資料３の「保健体育業務経費」、「学校保健推進事業」は「継続」という評価となっている。この際、２つの事業を統合し、「学校保健体育推進事業」として、より強力に事業展開を行い、目標値をクリアするような取組も必要であると考える。

（事務局）本会議の開催にあたり、庁内会議においても、「遅れている」とされている成果指標については、各分野で精査して引き続き検討するよう伝えている。

（委　員）アンケート調査に、男女共同参画が進んでいると思うかという記述があり、はいが 48.6%、いいえが 51.4%となっている。若い世代では進んでいると思うが、高齢世帯を中心として、実際の家庭生活の中ではそれほど進んでいないと認識している。「くまがや共同参画を進める会」等で男性会員が増えれば、もっと本市の男女共同参画が進むものと考えている。

（会　長）全国に発信できる熊谷の宝として「荒川・利根川」をとの指摘があった。総合振興計画に「将来都市構造図」が掲げられているが、ここで示された道路網等が完成すると、本市の活力が一段と向上すると考えている。

「農業の活性化」や「ごみの搬出の問題」については、地道に取り組んでいくことが大事であると認識している。

「学校の保健体育関係」については、今後の学校保健体育の推進で大切なことと思われるので、今日の意見等について、担当課に伝えていただきたい。

本日の議題、総合振興計画の推進については了解し、今後、市民の皆様へ公表させていただくことにする。

７　閉　会